

『薩藩旧記雑録』 能・狂言関係記事一覽 (三) (正保〜宝永年間)

林 和利

本稿は、『薩藩旧記雑録』能・狂言関係記事一覽(一)(天正・文祿年間)、『鹿兒島女子大学研究紀要』第九卷第一号、昭63・3)、および「同(二)(慶長・元和・寛永年間)」(同第十卷第一号、平1・3)の続編である。

本稿に収録した正保二年(一六四五)から宝永六年(一七〇九)は、元祿期前後の約六十年間にあたる。この時期の薩摩藩における能楽の実態は、全く解明されていないに等しいが、『薩藩旧記雑録』(東京大学史料編纂所蔵)に収録された能・狂言関係の記事は、これを具体的に知る手がかりとなる貴重な資料である。また、江戸城内で催された演能に関する記事もあり、中央における能楽の補足資料にもなりうるものである。しかし、膨大な分量の『薩藩旧記雑録』所収資料の中で、能・狂言に関する記事は平均約一パーセントにしかすぎないので、原典から探し出すのは大変な労力と時間を伴い、せつかくの資料が活用されにくい状況にある。約一パーセントにすぎない記事も拾い集めればかなりの分量になるので、本稿はそれをまとめて掲出し、近世の能楽史研究に益しようとするものである。なお、索引を付せばさらに活用が容易になるが、これは完結時に作成する予定でいる。

凡 例

1、漢字の旧字体は原則として新字体に改めた。

名古屋女子大学 紀要 三七(人・社) 二六七〜二七八 一九九一

2、省略部分は、……で示した。

3、句読点等は『鹿兒島県史料旧記雑録』の翻刻に従った。

4、各記事冒頭の文書名は、『鹿兒島県史料旧記雑録』の各巻末に付された文書目録によった。

5、各文書名の頭の数字は、『鹿兒島県史料旧記雑録』に付された史料番号である。

6、判明する限り日付を明示した。書状の場合は差し出しの日付で示した。

(例) (1・18) ……一月十八日

7、各記事末尾に『鹿兒島県史料旧記雑録』の収録巻と頁を示した。

(例) (追一1〜2) ……「旧記雑録追録一」1〜2頁

正保二年(一六四五)

2「北郷久加・新納久詮家老連署状」

(1・18) 来ル四月 若君様御元服之由候、左様候ハ、此方も御奉行衆御振舞可有之候、就其中西弥左衛門尉能可仕候之条、伊尻覚兵衛・玉利佐渡守・上村九郎兵衛・舟木惣次郎可召寄之由 御意ニて候、早々被仰渡急度罷上候様可被仰付候事、……

正月十八日

新納右衛門佐
久詮判

(五九)

北郷佐渡守

久可判

卯月廿六日

新納右衛門佐

久詮判

山田民部少輔(有丞)様

顛娃左馬頭(久政)様

川上因幡守(久國)様

島津図書頭(久通)様

人々御中

(追一 1 } 2)

島津図書頭様
川上因幡守様
顛娃左馬頭様
山田民部少輔(有丞)様

人々御中

(追一 17 } 18)

3 「松平信綱外二名(幕府)連署奉書」

(1・27) 今度就 若君様御着袴始、為御祝儀明日御能被 仰付候

間、可致見物旨 上意候、被存其趣、辰刻登城尤存候、

恐々謹言、

正月廿七日

阿部对馬守

重次判

阿部豊後守

忠秋判

松平伊豆守

信綱判

松平薩摩守殿(島津光久)

(追一 2)

松平薩摩守殿

四月廿八日

阿部对馬守

重次判

阿部豊後守

忠秋判

松平伊豆守

信綱判

(追一 18)

18 「記事 (光久、家綱元服祝賀ノタメ登營)」

(4・29) ……家綱公出ニ御干大広間一見レ之也、同二十九日任官

之慶宴興ニ行猿樂一饗ニ勅使 院使一、……

(追一 10)

慶安五年 (承応元年) (二六五二)

443 「酒井忠清外三名(幕府)連署奉書」

(8・30) 今度為御任官之御祝儀、明日御能被仰付候間、可有見物

旨御意候、被存其趣辰刻登城尤候、恐々謹言

八月晦日

阿部豊後守

忠秋判

松平和泉守

乘寿判

21 「北郷久加・新納久詮(家老)連署書状」

(4・26) ……仍去廿三日若君様大納言ニ被為成候、左様之為御祝

儀今日 御両殿様被成御登城候、……来ル廿八日九日於

御城御能御座候由候、……

松平伊豆守
信綱判
酒井雅樂頭
忠清判

(追一 221)

島津筑前殿
島津中務殿
伊勢兵部殿
鎌田筑後殿
島津図書殿

人々御中

(追一 295 ~ 297)

承応二年 (一六五三)

479 「酒井忠清外三名幕府老中連署奉書」

(8・30) 今度為御任官之御祝儀、明日御能被仰付候間、可有見物

旨 御意候、被存其趣辰刻登城尤候、恐々謹言、

八月晦日

阿部豊後守

忠秋判

松平和泉守

乘寿判

松平伊豆守

信綱判

酒井雅樂頭

忠清判

松平大隅守殿

(追一 235)

明暦二年 (一六五六)

635 「鎌田政有書状」

(6・24) ……然者今度 公方様御庖瘡御快然其上被直御袖候為御

祝儀、一昨廿二日於 御城御能御振舞被仰付、何れもの

御大名衆 薩州様被成御登城候、…

六月廿四日

鎌田源左衛門

政有判

町田勘解由殿

新納右衛門殿

649 「酒井忠清外二名幕府老中連署状」

(8・17) ……公方様御庖瘡御快然、其上被御袖、旁以為御祝儀、

六月廿二日御能御振舞被仰付、在江戶諸大名登城之趣相

達目出度被存由得其意候、…

八月十七日

阿部豊後守忠秋判

松平伊豆守信綱判

(六一)

松平大隅守殿

酒井雅樂頭忠清判

明曆三年（一六五七）

766 「酒井忠清外二名幕府連署狀」

（11・28）

……去月廿六日御能被 仰付諸大名登 城之刻、息薩摩
守見物之儀相達忝被存之旨得其意候、……

十一月廿八日

阿部豊後守

忠秋判

松平伊豆守

信綱判

酒井雅樂頭

忠清判

松平大隅守殿

（追一 363）

明曆四年（万治元年）（一六五八）

786 「酒井忠清外三名幕府連署奉書」

（5・9）

明日御能被 仰付候、可致見物之旨上意候、被存其趣辰
刻以前登城尤候、恐々謹言、

五月九日

稻葉美濃守

正則判

阿部豊後守

忠秋判

松平伊豆守

信綱判

酒井雅樂頭

忠清判

松平大隅守殿

（追一 369）

万治二年（一六五九）

828 「酒井忠清外三名幕府連署狀」

（3・6）

……公方様被執御前髮候、為御祝儀正月十五日御能被
仰出目出度被存候、其節同姓薩摩守登城之儀相達忝之旨
尤之事候、……

三月六日

稻葉美濃守

正則判

阿部豊後守

忠秋判

松平伊豆守

信綱判

酒井雅樂頭

忠清判

松平大隅守殿

（追一 379）

837 「酒井忠清外三名幕府連署奉書」

（5・27）

当春被執 御前髮候、為御祝儀明日御能被 仰付候、可
致見物之旨 上意候、被存其趣辰刻以前御登城尤候、恐
々謹言、

五月廿七日

稻葉美濃守

正則判

阿部豊後守

忠秋判

松平伊豆守

信綱判

酒井雅樂頭

忠清判

松平大隅守殿

（追一 381）

856 「酒井忠清外二名幕府連署奉書」

（六一）

(9・11) 今度為御移徙之御祝儀、明日御能被仰付候間、可致見物

旨 上意候、被存其趣卯后刻登城尤候、恐々謹言、

九月十一日

稻葉美濃守

正則判

松平伊豆守

信綱判

酒井雅樂頭

忠清判

松平大隅守殿

(追一 386)

859 「鹿府万治高帳」

(?・?)

一仝五百拾三石八斗

……

一仝百四拾石

……

奥山藤左衛門

中西弥左衛門

(追一 386 ~ 417)

万治三年 (一六六〇)

862 「酒井忠清外二名^{幕府}連署状」

(1・27) 明廿八日 勅使為御馳走御能被

候間、不及御登城候、已上、

正月廿七日

阿部豊後守

松平伊豆守

酒井雅樂頭

皆判ナシ

松平大隅守殿

(追一 418)

万治四年 (寛文元年) (一六六一)

916 「島津久通書状」

(1・2) ……

一琉球衆御振舞極月廿八二御座候、右為御馳走路地新被

仰付候、日本二二とは有之間敷やう二柴惣左など被申候、

我々も驚目申候、御能 翁^{幕府} 老松^{市左衛門} 実盛^{市左衛門} 湯屋^{市左衛門} 三井寺

養老二而候、……

正月二日

島津図書

久通判

鎌田藏人様^{政道}

人々御中

(追一 434 ~ 435)

寛文三年 (一六六三)

1014 「稻葉正則書状」

(5・27) 明廿八日来月朔日兩日御能就被 仰付候、例月之御札無

之候間不及登城候、恐々謹言、

五月廿七日

正則判

稻葉美濃守

正則

(追一 465)

寛文四年 (一六六四)

1037 「稻葉正則書状」

(1・27) ……明廿八日為 勅使 院使御馳走、御能被 仰付之候

間、不及御登城候、恐々謹言、

正月廿七日

正則判

稻葉美濃守

正則

(六三)

松平大隅守殿(高津光久)

(追一474)

1044 「稻葉正則書狀」

(3・14) 明十五日為 勅使 院使御馳走御能被 仰付候、依之例

月之御札無之候間不及登城候、恐々謹言、

三月十四日

正則判

稻葉美濃守

正則

松平大隅守殿

(追一477)

貞享二年(一六八五)

1913 「大久保忠朝書狀」

(4・13) ……公方様益御機嫌能被成御座恐悦旨尤候、姫君様為御

入輿御祝儀、先頃御能被 仰付候儀、目出度被存之由得

其意候、……

四月十三日

大久保加賀守

忠朝判

松平大隅守殿

(追一734)

貞享四年(一六八七)

2080 「記事(網貴家督ノ祝宴ヲ催ス)」

(9・10) 九月十日網貴祝二家督之賀儀一、招二待元老大久保加賀

守忠朝・阿部豊後守正武・戸田山城守忠昌・土屋相模守

政直一、時正武・忠昌・政直依二公事一不レ能二來臨一、

是故招二忠朝于桜田第一、御留守居杉浦内藏丞、大御目

附高木伊勢守・河野權右衛門、京都町奉行井上志摩守、

大坂町奉行藤堂伊予守、伊勢奉行岡部駿河守、作事奉行

(六四)

戸田又兵衛、長崎奉行宮城主殿各列二同席一、而饗二応

之_二使下_二金剛太夫喜多七太夫_一奏中謡曲上(高砂也)……

(9・14) 翌十四日亦招二請一族媾家一而饗二応之_一、觀世太夫・宝

生太夫・今春太夫等奏二舞曲一以祝二家督之儀一也、

(追一796-797)

元禄三年(一六九〇)

2288 「島津綱貴書狀」

(9・18) ……公方様益御機嫌能被成御座、去月十二日被遊 御能

候付而、同姓修理大夫江拜見被 仰付候由承知仕、誠以

難有仕合奉存候、……

九月十八日

大久保加賀守様

阿部豊後守様

戸田山城守様

土屋相模守様

人々御中

(追一861)

元禄九年(一六九六)

2633 「大久保忠朝書狀」

(7・28) 御自分江自然能被 仰付儀も候ハ、何を可被致候哉、

四五番御書付候而可被遣候、以上、

七月廿八日

松平修理大夫様

大久保加賀守

(追一964)

2634 「大久保忠朝書狀」

(7・30) 以手紙令啓達候、近日高砂之能被 仰付儀可有之候間、

左様可被成御心得候、以上、

七月晦日

松平修理大夫様

大久保加賀守

(追一 964)

2637 「演能次第」

(8・4) 高砂 松平修理大夫 源七 平三郎 八三郎 新九郎 又六

覚

一六日四時前揃、

一家来二人充 御城楽屋迄可被相連候、

一当日者献上物ニ不及候、

一翌七日為御礼可有登 城候、

一当日日高二相濟候ハ、各江御礼ニ可被相越候、及暮候

ハ、翌日退出之節可被參候

以上

八月四日

(追一 965)

2638 「島津吉貴書状」

(8・4) ……今日登 城仕候之処、来六日於御前高砂之能被 仰

付候旨、御老中列座ニ而土屋相模守殿被仰渡難有仕合奉

存候、……

八月四日

松平修理大夫

吉貴御判

進上中将様

(追一 965)

2639 「記事(吉貴登營シテ高砂ヲ舞ウ)」

(8・6) 八月六日、吉貴予応ニ

大樹綱吉公之命ニ、登レ營而勤ニ高砂之能一也、
(8・7) 翌七日登城乃奉レ謝レ之、

(追一 965)

2688 「柳沢保明・松平輝貞連署書状」

(10・15) ……將又同氏修理大夫先頃能被 仰付、其上御菓子拝領

難有由得其意候、……

十月十五日

松平右京大夫

輝貞判

柳沢出羽守

保明判

松平薩摩守殿

(追一 971)

2669 「松平正勝書状」

(10・15) ……然者去ル六日御同氏修理大夫殿於 御前御能被 仰

付旨難有思食之由、依之老中迄以御使者被仰達旨委細承

知仕候、……

十月十五日

松平市正

正勝判

(追一 972)

2670 「青山幸能書状」

(10・15) ……然者八月六日於 御前、御同姓修理大夫殿御能被

仰付之、難有思召候、依之老中迄以御使者被仰達趣承知

仕候、……

十月十五日

青山伊賀守

幸能判

松 薩摩守様

貴報

(追一 972)

(六五)

2671 「鳥田利由書狀」

(10・15) ……然者八月六日御同氏修理大夫殿、於 御前御能被仰付候段、御承知被成難有被思召之旨、因茲為御礼老中迄御使者被差上之由被仰下、御紙面之趣承知仕候、……

十月十五日

嶋田大和守

利由判

松 薩摩守様

尊報

(追一 972)

元禄十年(一六九七)

113 「鳥津綱貴書狀」

(8・15) ……然者去八日從小笠原佐渡守殿、明九日御用之旨以御奉書被仰渡及登 城之処、同十日能被 仰付候、当日於御前能首尾好相仕舞候、……

八月十五日

薩摩守

綱貴御判

松平修理大夫殿

御箱所

(追二 38 39)

122 「鳥居忠救書狀」

(8・19) ……今度薩摩守殿於 御前御能被 仰付候之処、被成御仕舞目出度奉存候、……

八月十九日

鳥居播磨守

忠救判

松平修理大夫様

参人々御中

(追二 40)

127 「鍋島綱茂書狀」

(9・5) ……御同姓薩摩守殿頃日於 御城御能被 仰付之、首尾好被相勤之由承之、珍重存候、……

九月五日

松平信濃守

綱茂判

松平修理大夫様

参人々御中

(追二 42)

132 「鳥津久利書狀」

(9・16) ……且又先頃於 御前御能首尾好被遊目出度奉存候、將亦修理大夫様弥御勇健被成御座珍重奉存候、……

九月十六日

鳥津八郎右衛門

久利判

鳥津中務様

参人々御中

(追二 44)

144 「鳥津惟久書狀」

(10・6) ……去比 太守様御儀於 殿中御能被 仰付之、首尾好御仕舞被遊候趣致承知、珍重之御儀奉存候、……

十月六日

鳥津左京

惟久判

鳥津中務殿

参人々御中

(追二 46 47)

147 「阿部正武書狀」

(10・22) ……將亦先頃同氏薩摩守能被 仰付、其上御菓子頂戴之

難有之由、得其意候、……

十月廿二日

阿部豊後守

正武判

松平修理大夫殿

(追二47)

148 「柳沢保明・松平輝貞連署書状」

(10・22)

……將又先頃同氏薩摩守能被 仰付、其上御菓子頂戴之
難有之由、紙面之趣得其意候、……

十月廿二日

松平右京大夫

輝貞判

柳沢出羽守

保明判

松平修理大夫殿

(追二47)

149 「米倉昌尹書状」

(10・22)

……然者先頃於 御前御同姓薩摩守殿能被 仰付之、其
上御菓子御拝領難有被思召候旨、……

十月廿二日

米倉丹後守

昌尹判

松平修理大夫様

御報

(追二47、48)

150 「島津綱貴書状」

(10・28)

……先頃於 御前能相勤候付而為悦示給、殊目錄之通被
相贈之、令祝着候、……

十月廿八日

薩摩守

綱貴御判

松平修理大夫殿

回報

(追二48)

156 「島津綱貴書状」

(11・6)

猶々先頃於 御前能被仰付候、為祝詞目錄之表被相
贈之、令怡悦候、為謝札別楮之通進之候、以上、

一筆令啓候、先月十一日御能拜見被 仰付、難有仕合候、

依之為祝儀目錄之通進之候、……

十一月六日

薩摩守

綱貴御判

松平修理大夫殿

御宿所

(追二49、50)

166 「柳沢保明・松平輝貞連署書状」

(12・23)

……將又先頃同氏薩摩守 御能拜見被 仰付之、於其方
難有之由紙面之趣得其意候、……

十二月廿三日

松平右京大夫

輝貞判

柳沢出羽守

保明判

松平修理大夫殿

(追二52)

167 「小笠原長重書状」

(12・23)

……將又先頃同氏薩摩守 御能拜見被 仰付、於其方難
有之由得其意候、……

十二月廿三日

小笠原佐渡守

長重判

松平修理大夫殿

(追二52)

元禄十一年(一六九八)

237 「阿部正武外二名幕府連署書状」

(6・23)

明後廿五日御能被 仰付候間、可致見物旨 上意候、被

(六七)

存其趣五半時可有登城候、以上、

六月廿三日

小笠原佐渡守

土屋相模守

阿部豊後守

九月廿三日

向井空參

(六八)

松平薩摩守殿

(追二71)

元禄十二年(一六九九)

444 「進藤長之書狀」

(6・13) 当春於其御地、被仰聞候御額之事、則令申沙汰候処、此

節從

禁裏・洞中被仰出候御清書物数多候故、御延引之御事候、

併近々御清書有之候、以此旨可申述之由、所右大五殿仰

如此候、恐々謹言、

六月十三日

進藤修理亮

長辨

中西長門右衛門殿

(追二125)

591 「向井正興書狀」

(9・23) ……然者又左衛門娘儀、先比申上候処ニ被聞召候、奉得

其意候、仍而小笠原彦太夫かも申上候趣、御承知被遊之

由恭奉存候、髓而関政右衛門儀、御紙面之趣忝奉存候、

当暮ニ並次第、可被仰付候旨、過分至極存候、おそき分

少もく不苦候、なみ次第ニ奉存候、被人御念御紙上不

淺次第三候、島津中務殿へ申遣候書狀之趣、御聞被遊之

旨、重々忝存候、將又中西長門右衛門、又左衛門參上申

候節、長門右衛門へ我等が以手紙申入候趣、御聞被遊之

由、過分至極奉存候、…

元禄十三年(一七〇〇)

749 「島津綱貴請書」

(6・23) 明後廿五日御能被仰付候間、見物可仕旨 上意之趣謹

承知仕、難有仕合奉存候、五半時登城可仕之由被仰下

畏奉得其意候、恐惶謹言、

六月廿三日

阿部豊後守様

土屋相模守様

小笠原佐渡守様

(追二218)

元禄十五年(一七〇二)

1152 「記事(島津忠置家督ヲ謝ス)」

(2・21) 元禄十五年五月二十一日忠置為レ賀家督奉レ請太

守綱貴公千麿府館、飾舞台有御能、献上御太刀

一腰・御刀一腰、御馬一疋、

(追二346)

宝永二年(一七〇五)

1911 「記事(吉貴、老中以下ヲ招宴ス)」

(2・22) 松平因幡守定達・島井右近忠利・酒井縫忠菊・島津

淡路守惟久・大岡次右衛門・小笠原十右衛門・小笠原彦

太夫・島津八郎右衛門・同八郎兵衛・薬師寺宗仙院・法

印村山白伯各在勝手也、四座之猿楽觀世太夫・宝生太夫

・同九郎等奏二囃子一，事終而各退出，同月二十二日・
同二十三日招二侯伯及旗本之士一，饗応大設燕乃觀世宝
生奏二舞曲一也，詳載二于別録一，因略二于一，

(追二555一556)

1912 「飾付目録」

(2・22一23) ……

囃子組

高砂 觀世大夫 三郎右衛門 又三郎

東北 宝生大夫 市郎兵衛 新九郎

祝言 助九郎 長右衛門 惣右衛門 彦五郎

饗応終元老退出之後，再奏二囃子一也，

囃子組

立田 九郎 小十郎 長右衛門 惣右衛門長 彦五郎

芦刈 觀世大夫 三郎右衛門 庄兵衛 清六郎

祝言 市郎右衛門 又三郎 権八郎

(追二556一557)

1928 「土屋政直外三名幕府老中連署状」

(3・22) ……

今度 御昇進為御祝儀，来廿六日御能被 仰付候間，可
致見物旨被 仰出候，着長袴五半時可有登 城候，以上，

三月廿二日

本多伯耆守
稲葉丹後守
小笠原佐渡守
土屋相模守

松平薩摩守殿

(追二562)

1929 「記事(吉貴，綱吉父子ノ叙任ヲ賀ス)」

(3・5一26) 茲歳之酉三月五日

大將軍綱吉公任二右大臣一，儲君家宣公叙二任從二位
大納言一也，依レ是同月二十二日吉貴受二奉書一，同二十
六日登二武城一，而拜二視御能一，乃賜二饗応一，是則因レ
祝二兩公叙任之賀儀一也，

(追二562)

宝永三年(一七〇六)

2293 「鳥津吉貴口上覚」

(1・8) ……

御代々様江伊勢兵部(資忠)

御目見仕候覚

一権現様江度々 御目見仕候，
(徳川家徳)

一(徳川家忠)台徳院様上意二而西御丸江被召出，御能見物仕候，…

(追二677)

宝永四年(一七〇七)

2403 「つほね・ひて連署消息」

(?・?) ……

さつまの守様より御ふみ被下候，…近衛前関白様御事
御機嫌よく御下向被遊，三月七日 此御所へ入らせられ
御ふた御所様御久くニて御対面被遊，めてたさ御ま
ん足の御事ニて御座候，九日ニも御能御座候て入らせら
れ候御事，めてたく思しめし候との御事ニて，…

(六九)

島津勘解由殿

同 帶刀殿

御返事

ひて
か

つほね

(追二709)

宝永五年(一七〇八)

2602 「北郷忠置系譜抄」

(閏1・10) 宝永五年戊午閏正月十日奉請 吉貴公於麿府館、飾舞

台興行御能云々、

(追二769)

2716 「四座猿楽配当米割付状」

(10・2)

覚

高七拾貳万九千五百六拾三石余

一米貳百拾八石八斗六升八合 配当米

右者從当年、琉球国分之高相込候二付、四座之猿楽配
当米割如此御座候、書面之通、浅草御藏江金三而当中
可有御納候、米直段之儀者金壹兩二毫石五斗、端銀者六
拾六刃之積り二付、從來丑年者右之通九月中限之可有御
納候、以上

十月二日

平岩若狭守^(親唐)⑩

石尾阿波守^(氏目)⑩

中山出雲守^{(長中)有御加御不在候時存}⑩

萩原近江守^(重彦)⑩

稲垣对馬守^(重宗)⑩

加藤越中守^(明英)⑩

久世大和守^(重行)⑩

松平薩摩守殿

(追二807)

宝永六年(一七〇九)

2797 「記事(吉貴、將軍宣下ヲ賀ス)」

(5・15) ……大納言家宣公転任正二位内大臣征夷大將軍兼右近

衛大將……、同十五日因一將軍

宣下之賀儀一有猿楽、吉貴心レ微見、物之一矣、

(追二840~841)

2802 「土屋政直外五名^{幕府}連署状」

(5・13) 為今度之御祝儀明後十五日御能被 仰付候間、可致見物

旨被 仰出候条、着長袴五時 御本丸江可有登 城候、

以上、

五月十三日

井上河内守

大久保加賀守

本多伯耆守

秋元但馬守

小笠原佐渡守

土屋相模守

松平薩摩守殿

(追二842)